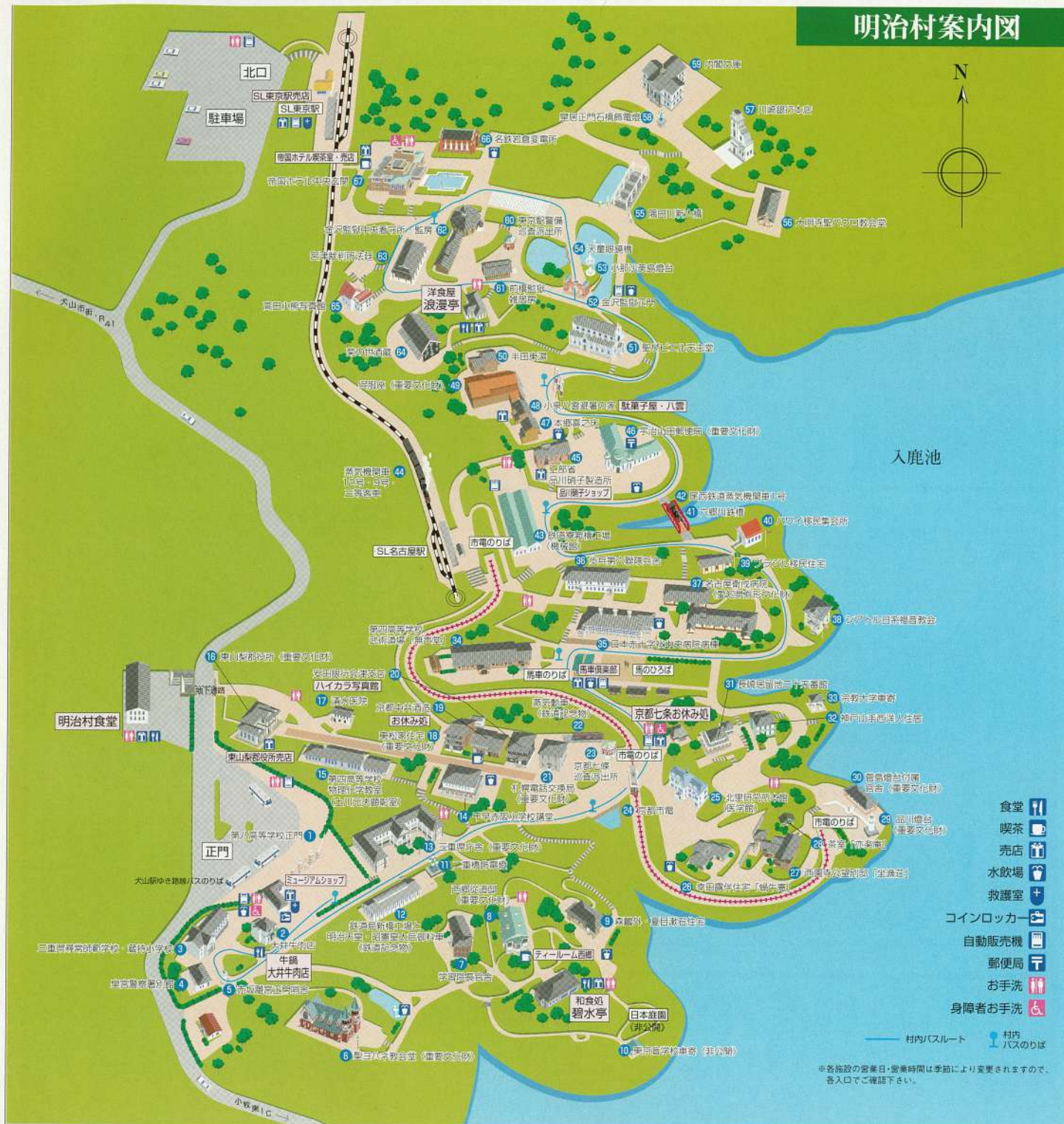


明治村 だより

夏号 Vol. 28

目次

- 千代山房のころ 広石 修 …2
- 半田東湯と江戸の湯屋 米山 勇 …4
- 夏の明治村—催しものご案内 ……6
- A La Meiji-mura ……7



★TOPICS★
ボランティアガイド始まる！
 博物館明治村では4月1日からボランティアガイドが活動を開始しました。正門と北口のボランティアブースを拠点にお客様へのご案内と、所要時間30分の定期ガイドを行っています。また、お客様のご要望にあわせてのご案内も行っておりますので、お気軽に声をおかけ下さい。

「明治村 だより」 第29号発行のお知らせ
 発行時期 平成14年9月（予定）
 申込方法 「明治村だより」第29号で希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

平成14年7月5日発行
「明治村だより」第28号（平成14年 夏）
 発行 博物館明治村
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
 電話 (0568) 67-0314
 ◎ホームページ <http://www.meijimura.com>
 製作 大日本印刷株式会社 表紙 団扇絵 夕景



半田東湯と

江戸の湯屋

米山 勇

建築史に携わる人間にとって、明治村は特別な存在だ。東京に生まれ育った僕自身、物心ついたときから愛知県といえば明治村、野外博物館といえば明治村だった。とくに近代建築史を専門とする者の間では、「名古屋城より明治村」というのが常識とさえいいのだ。

明治村のだいい味はさまざまだが、なによりも立地が素晴らしい。都会の喧騒とは無縁の静謐な敷地に展開される世界は、まさに川上秀人氏の言う「異空間」「夢空間」である(注1)。

明治村への道程もまた楽しみのひとつだ。名鉄線で犬山駅をめざす間にいやがおうでも高まっていく「再会」への期待感。犬山からバスにしばし揺られ、明治村の風景がかいま見えた時に抱く「また来てしまったな」という独特の感慨。終点が近づくとおもむろに流れる車内アナウンスも旅情をかきたてる。

そしていよいよ、明治村に到着。チケットを買って門をくぐるのだが、この門からして明治四十二年の「辰野式」建築。「異空間」は早くもはじ



写真1 半田東湯

まっているのだ。重要文化財の三重県庁舎の前で、今日は何を見ようかな、などと考える。かつては全部見てやろうと意気込むあまりにフィルムが足りなくなり、VI号地の「小泉八雲避暑の家」で追加購入というのが通例であった。さすがに最近はずっと明治村通になり、所持時間にに応じて見学する術を持つようになった。それでも毎回、かかさず見学する建物が二つある。

一つは、なんといってもフランク・ロイド・ライトの名作、帝国ホテル。僕は特に「ライトびいき」ではないけれど(注2)、帝国ホテルはやはり別格なのだ。水平線が強調された美しいファサード、スクラッチタイ尔と大谷石という新鮮な素材内外に繁殖するおびただしい装飾。そして最大の魅力―縦横無尽にかけめぐる床が織りなすダイナミックな空間の魔術。明治村に移築された帝国ホテル中央玄関は、建築家ライトの空間マジックに

ひたらせてくれる至高の建築なのだ。そしてここからが本題なのだが、もう一つ最近になって必ず訪れるようになった建物がある。VI号地にある半田東湯(以後、東湯 写真1)である。この建物との縁は、三年ほど前、江戸東京の銭湯建築について研究する機会をもって以来だ。東京の銭湯といえは、子宝湯(写真2)に見られるような、神社仏閣を思わせる重厚な外観と過剰なまでの装飾が有名だが、こうした造りはそれほど昔からあったわけではない。関東大震災以後、昭和初期のごく短い間に集中的に建てられたものなのだ。では、それ以前の銭湯、とくに江戸時代の湯屋はどのような建築だったのだろうか? 実は東湯こそ、その面影を現代に伝える貴重な建物なのである。

湯屋については、これまでいろいろな論考がされてきたが、その建築的特質に関しては、ほとんど喜多川守貞が書いた『守貞謄稿』にたよるしかなかった。その大きな理由は、湯屋に関する図面の類がほかに見出されなかったことだ。江戸東京博物館に所蔵されている「江戸湯屋文書」は、文書だけでなく湯屋の図面も描かれたものとして非常に興味深い史料である(図1)。この史料にもとづいて当時の湯屋の様子をコンピュータ・グラフィックで再現した(図2、3)(注3)。これを東湯と比較してみよう。



写真2 子宝湯(江戸東京博物館分館、江戸東京たてもの園に収蔵展示)

再現した湯屋(以後、江戸湯屋)では、右側が男湯、左側が女湯であり、東湯とは逆の配置である。『守貞謄稿』には、「右図、右女左男トスレドモ、或ハ、右男左女湯モアリ。又ハ、間口廣カラズ、奥行ノ長キ物ハ、表ニ男湯、路地ヲ入テ、裡ニ女湯ヲ建ルモアリ」との記述があるように、男女の順序は決まったものではなく、敷地の間口が狭い場合には、手前を男湯、奥を女湯というように、両者を縦列させる場合もあったようである。

土間から杉板敷の脱衣空間に上がると、男湯のみ上り階段が備えられている。これは、いわゆる「湯屋の二階」への段梯子である。「湯屋の二階」は、男性だけがくつろぐことのできるサロンだった。東湯にもちゃんと「二階」があり、階段は、男湯の脱衣場だけに設けられている。残念ながら、この空間は公開されていないが、かつて東湯に通った男たちは、湯上がりのいい気分ですこから往來を見下したのであろう。

江戸湯屋では、脱衣空間と流し場の間に空間的境界(建具)はない。これは当時の湯屋としてはごく一般的な空間構成であった。さすがに東湯の

方は近代の銭湯らしく、ガラスの引き戸があり、脱衣室と浴室を隔てている。保温や防水の面から、やはり間仕切りが必要となったのだろう。流し場はどちらも板張り、排水のための勾配を持つ点も共通である。

江戸湯屋の空間構成図でもっとも目をひくのが、浴槽の手前にある鳥居のような部分である。これは、湯気をのがさないために考案された「柵榴口」というものである。『守貞謄稿』によれば、柵榴口の形状は上方と江戸で異なり、上方では唐破風状、江戸では鳥居状のものが多かった。柵榴口は、内部が薄暗く、湯気が立ち込めてほとんど何も見えない上、水量も少なく、入替えも多くなかった。衛生上の問題から明治十二年に禁止された。東湯は明治末頃の建物であるから、当然柵榴口はない。

最後に建物の外観だが、江戸湯屋では正面左右に出格子が設けられ、向かって左側の出格子の外にはさらに駒寄せが置かれる(中が女湯だからだろう)。二階の正面は全面を出格子とし、左右両端に戸袋が備えられる。屋根は切妻造り平入り、

軒の形式は腕木が壁より張り出し、前面で桁を受ける出桁造りである。このような特質は、建物側面の格子や障子とともに、伝統的な町屋の建築形式が継承されていることを示している。東湯も、基本的には町屋の形式で、屋根も勾配のない切妻造りだが、妻入りである点が異なっている。いずれにせよ、明治期以前の銭湯は、いわゆる「東京型銭湯」のような豪華な外観とはほど遠い、質朴な造りであったことがわかる。

以上のように、明治末期に愛知県半田市に建てられた東湯は、江戸の湯屋建築の特質をかなりの部分において継承した遺構として興味深い。ところで、前出の子宝湯は現在、東京都小金井市の江戸東京たてもの園(江戸東京博物館分館)に移築されているが、そこでの悩みの種は「入浴はできないんですか?」という来園者の声にどう応えるかである。おそらく明治村の東湯についてもそういった意見が寄せられていることと拝察するが、これがなかなかの難問だ。ご入浴いただきたいのはやまやまなれど、設備や管理の問題などから、そう簡単にはいかないというのが実情だろう。たしかに、犬山の自然に囲まれて一風呂というのはなんとも魅力的だと思っけ。

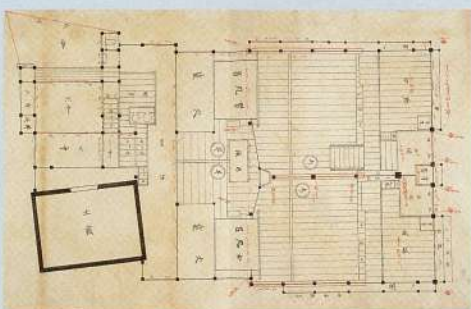


図1 「江戸湯屋文書」(江戸東京博物館蔵)

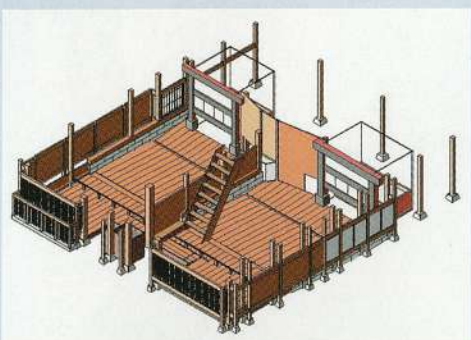


図2 「江戸湯屋」空間構成図(作図筆者)



図3 「江戸湯屋」外観透視図(作図筆者)

注1 川上秀人「異空間」への誘い

注2 西澤泰彦「文明開化の風景」(同右冬号Vol.26)

注3 江戸の湯屋建築に関する詳しい論考については、拙稿「江戸湯屋建築の復元的研究」(「東京都江戸東京博物館研究報告」第4号、東京都歴史文化財団、一九九九年)を参照のこと。

よねやま・いさむ

(建築史家/東京都江戸東京博物館専門研究員)

A La Meiji-mura

桐竹鳳凰は平安時代より貴族の装束や調度品などに用いられた模様で、高貴瑞祥(めでたいもの)の印としてのちに天皇専用の御紋とされました。鳳凰は古代中国に伝わる霊鳥で、桐林に棲み竹の實を食べるといふ中国の故事に由来しています。大正十二年の関東大震災で本館は大きな被害を受けて改築され、大正十五年に鉄筋コンクリート造の新たな本館が竣工しました。この「赤十字と桐、竹、鳳凰」はその後病棟廊下に移され、「皇恩の厚きを仰ぎ」、そして「長へに光輝ある旧館の佛」を記念するために残されたものです。



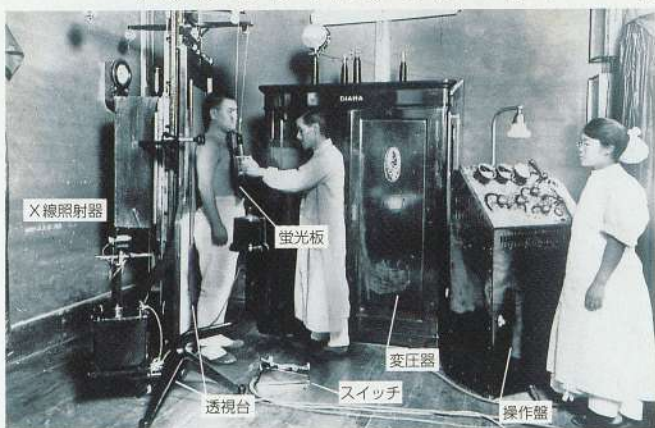
「赤十字と桐、竹、鳳凰」

③日本赤十字社中央病院病棟の廊下に掲げられている木彫の額「赤十字と桐、竹、鳳凰」。これは明治二十三年(二八九〇)十一月に竣工、翌年開院した煉瓦造二階建の日本赤十字社病院本館正面のアーチ部分にはめ込まれていたものです。日本赤十字社中央病院は皇室から十万円と、御料地の一部を下賜され、現在の東京都渋谷区広尾に建てられたものです。設計は宮内省技師の片山東熊、病院はドイツのハイデルベルグ大学病院を模したものとされています。本館は堂々たるルネッサンス様式の西洋館で、その中に取り入れられていた和風のモチーフの桐、竹、鳳凰。実は「赤十字と桐、竹、鳳凰」は日本赤十字社の社章で、明治二十年当時の日本赤十字社の社長佐野常民が参内し、「恐れ多き事ながら何か本社の徽章を戴きたく願奉る」と昭憲皇太后は、おつけになっていたかんざしの模様を使ったらよからうと仰せられ社章として賜ったといわれています。



「その名はダイアナ」

⑦名古屋衛成病院 明治十一年建築 の中にクロゼットのような優美な箱と不思議な器械が展示されています。その名は「ダイアナ」、大正七年に京都の島津製作所で製造された医療用X線装置です(※1)。「ダイアナ」はローマ神話に登場する狩猟と月の女神の名です。なぜこのような美しい名がついたのか、本当のところは詳らかではありません。では、撮影風景を見てみましょう。操作は操作盤で行います。電源を入れると電流は「DIANA」と書かれた箱(※2)に納められた変圧器で高圧の直流電流に変えられ、箱の上から出てX線照射器へと送られます。医師の足元にあるペダルがX線照射のスイッチです。撮影時、患者は蛍光板のついた透視台(※3)に立ち、医師は蛍光板を挟んで患者の前に居てスイッチを入れます。すると患者の背中側からX線が照射され、医師が手にしている蛍光板に体内の様子が写し出されます。かつてX線撮影はフィルムに撮るものではなく、蛍光板に浮かび上がった画像を直接医師が見て診断をしていました。今では瞬時に終わる撮影も、当時五秒はかかったといわれています。



大正10年頃の撮影風景

※1 展示中の装置は大正十四年製造。 ※2 保護箱といい、ヤマハ製。 ※3 明治村にはこの装置が残されていません。

「笠戸丸」

⑧ブラジル移民住宅の中に入ると、その正面に船の模型と木片が展示してあります。第一回ブラジル移民の輸送船として有名な「笠戸丸」の模型と、その船体(左舷部)の一部です。「笠戸丸」は元々、一九〇〇年、南米航路用にイギリスで設計・建造されましたが、進水後にロシアが義勇艦(※1)として購入、「KAZAN」と命名されました。日露戦争時にはロシア太平洋艦隊に組み込まれ、旅順港で病院船として使用されましたが、その任務を解かれた直後に被弾し港内で着底、旅順陥落後に日本海軍に引き上げられて「笠戸丸」と改名されます。その後、海軍省員鎮守府に所属して、船会社への貸し下げ処分が決定し、一九〇六年に東京の東洋汽船株式会社が借り受けました。そしてハワイやペルー、メキシコへの移民輸送船として四度航海した後、皇国民合資会社が募集した第一回ブラジル移民七八一名を乗せて一九〇八年四月二十八日に神戸港を出港し、六月一日にブラジルのサントス港に入港しました。病院船の大きな人員収容力は移民輸送船としてもうってつけだったので、しかしこのブラジル移民輸送が、移民輸送船としては最後の航海でした。移民船としての仕事を終えた「笠戸丸」はこの年二月に海軍省に返却されますが、翌年大阪商船株式会社に貸し下げられ(※2)台湾航路に豪華客船として就航、さらに病院船や南米航路船としての使用を経て、一九三〇年に大阪の塩崎汽船会社に売却されて鯉工船となりました。その後船主を転々としながら北洋漁業に従事していましたが、一九四五年八月九日、カムチャッカ半島西岸の日魯漁業ウチカ工場沖に停泊中、ソ連の空襲を受けて沈没しました。展示されている木片は、その数奇な運命の一部始終を見ていたのかもしれない。



※1 通常は商業航海に従事し、有事の際には巡洋艦などに転用されるロシアの船。 ※2 後、一九二二年に払い下げとなる。



SUMMER 夏の明治村

明治の夏の暮らし

村内各所の建物で、夏を涼しく過ごす先人の工夫を紹介。
森鷗外・夏日漱石住宅 幸田露伴住宅「蝸牛庵」ほか

盛夏の味覚

和食処「碧水亭」 洋食屋「浪漫亭」

明治のりもの博覧会

平成14年3月10日～11月24日

「明治天皇御料車」の内部特別公開!

〈明治天皇・昭憲皇太后御料車〉
明治村にある御料車(鉄道記念物)は、歴代中最も豪華。内外装は漆塗りで、彫刻・螺鈿・七宝など当時の最高水準の工芸が盛り込まれている内部を初公開します。

儀装車の記念展示

〈馬のひろば横〉
皇居を訪れる海外の貴賓や使節の送迎、儀式などに使用された瀟洒な馬車です。

新橋・横浜間を走った蒸気機関車12号・9号が走る。

●片道大人300円、小人150円
明治7年に輸入されたイギリス製で、日本最古の機関車のひとつである12号(毎月前半)と明治45年アメリカ製の9号(毎月後半)に実際にご乗車していただけます。

挑戦!! 明治の自転車

〈馬のひろば横〉 10分100円
明治時代に大流行した前輪が大きく、後輪が小さいオーディナリー型自転車に挑戦!

食は明治にあり

〈明治村食堂〉
明治の「姫路駅の駅弁」と食堂メニューの再現

人力車に乗ってみよう。

〈三重県庁舎:明治のくらしよろず体験〉

市電・SL乗り放題つき 博覧会 お楽しみガイド

●大人700円 小人500円 受付・発売/正門・北口

「明治のりもの博覧会」を見学しながらクイズを解いたりスタンプを集めるワークシートと市電・SLの一日乗車券と馬車・バス・馬車道アイスなどの割引券をセットにしたガイドブックです。

建物ガイド

〈呉服座・西園寺公望別邸「坐漁荘」・西郷従道邸2階〉
普段入れない建物の内部をガイド付きで公開します。
時間(各所とも)
11:00 11:20 11:40 13:00 13:20 13:40

開運ホール

〈千早赤阪小学校講堂〉
矢場・射的・輪投げ・サイコロゲームにおみくじや、開運グッズいっぱい。

暗夜回廊

〈歩兵第六聯隊兵舎〉
1回200円
暗闇の迷路はスリル満点!

明治のくらしよろず体験

〈三重県庁舎1階〉
明治のくらしの道具を見るだけでなく、体験できる展示室です。

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。